

第13回原子力保全改革検証委員会で いただいた意見への対応状況について

平成22年5月14日
関西電力株式会社

第13回 原子力保全改革検証委員会で頂いた意見への対応状況

平成22年5月14日

分類	意見	対応状況
美浜発電所3号機再発防止対策の実施状況について	現在、検討されている運転中の保全活動に関して、「定期検査前の準備作業」、「定期検査前の設備重点点検」、「運転中の日常点検」等の違いについて、わかりやすい表現にした方がよい。	いただいたご意見を「運転中の保全活動検討ワーキンググループ」での検討結果を取りまとめた報告書の記載に反映いたしました。
安全文化評価の実施状況	安全文化醸成への取組みは、原子力だけではなく、医療業や製造業等の色々な業界で同じように取り組んでいるところが沢山あるので、学会等を利用して、是非、成果や良い取組みを発表し、その事例を示して頂くことを期待している。	当社の安全文化醸成への取組みについて、原子力業界においては、引き続き、IAEA(国際原子力機関)、日本原子力技術協会、電気事業連合会等の場で積極的に情報交換をいたします。また、他業界に対しても、建設業界の講演会において当社の取組みを発表する等、情報発信を実施しております。今後も積極的な情報交換に努めて参ります。
重点施策の実施状況	新入社員が半年後の研修報告を行う時には、他産業の例にあるように地域の方々のご参加も頂ければ、入社後の早い段階で、地域の方々の思いや意識を実感することに役立つと思う。	検証委員会の場で先生からご紹介のあった他産業の取組みについて、具体的な内容を確認し、当社の取組みに反映することができるかどうかを検討いたします。今後も様々な情報を参考にし、新入社員が、原子力運営が地域の方のご理解を得て成り立っていることを理解できるように、教育・育成の改善に取り組んで参ります。
	社員・協力会社アンケート結果分析にある「現場に足を運ばない」の問題点は、現場に関電の顔が見えていないという心情的な意味なのか、協力会社の現場作業のところに関電の担当が来る頻度が実際に少ないことが問題なのか不明であり、この点も踏まえて対応策を検討することが大切である。	アンケートの設問は、「協力会社のみなさまの意見や要望を聞くために現場に足を運んでいると感じられますか?」となっていることから、協力会社の作業現場に当社の担当者が来て話を聞く頻度が実際に少ない、もっと話を聞いてほしいと感じておられるものと考えられます。協力会社対話(所次長対話)等では、当社の現場立会等の必要なものについては十分に対応していると確認しています。これまでも、当社担当者ができるだけ現場に足を運び協力会社の方々との対話ができるよう、他の業務を効率化したり、「現場における確認ポイント集」や「コミュニケーションレベルアップ集」を作成し活用して参りました。今後もこういった取組みを継続して参ります。
	協力会社の意見に工程に関するものが多いのは、決められた時間の中で効率よく定期検査をしなければならないからなのか、協力会社の都合によるものかなど、様々な要素が絡みあっていると思う。原子力発電の稼働率を上げながら、かつ安全にするにはどうすればよいのかという問題につながっていくと思うので、きちんと整理して対応を考えていくことが大事だと思う。	工程については、協力会社の方々の納得が得られるよう協力会社と6ヶ月前から調整を開始し、定検開始前には更に細部を調整しながら策定しております。これら安全最優先の工程策定の取組みの姿勢や効果については、約3300名の協力会社の方々へのアンケートで約7割を越える方々から肯定的な評価を頂いております。しかしながら、同じアンケートの自由記述では、作業工程に対する約160件の厳しい意見を頂いていることから、ご苦勞いただいている方々が一部におられるものと思われま。したがって、今後も安全最優先の定検工程をより多くの作業員の方々に理解していただく活動を繰り返し実施するとともに、継続的に実施している協力会社対話(所次長対話)等で協力会社の方々から工程についてのご意見を伺い、対応を検討して参ります。
現場の安全に関する諸施策の実施状況	設備対策を十分に尽くした上で、より層の厚い安全を求めていくためには、危険感受性など、人に頼る安全も考える必要があり、そのためには個人の資質を高めることが重要になってくる。今までのようなリスクアセスメントやハットヒヤリでは見つけ出せない気がかりや不安になるものを発掘する施策を、今後は考えていく必要がある。	従来より、社員に対しては「危機意識を高める事例研修」や設備トラブルを対象とした「原子力保修業務研修(共通)トラブル事例コース(保修関係)」により危険感受性を高める施策に取り組んでいます。また、大飯発電所の労働災害を受けて当社と協力会社の双方において、現場における危険に対する感受性、注意力を向上させる取り組みとして ・作業責任者に対して「作業責任者の現場遵守事項」、「正しい安全知識」に係る教育(協力会社) ・作業員全員を対象とした安全体感研修(協力会社) ・労働災害をテーマとしたトラブル事例研修(当社) などを実施しているところです。作業に携わる個人の危険に対する感受性が向上することで、既存の仕組みであるリスクアセスメントやハットヒヤリ等が今まで以上に有効に機能すると考えますが、ご指摘いただきました点に留意しながら、今後も取り組んで参ります。
	大飯の労働災害の対策はポイントを押さえていると思うが、現場の人に伝える際には、現場の人がはっと気がつくように、「専用の金具を使用することを徹底する」、「準備や後片付けの作業の時こそ、特に上下作業に注意する」等の表現にした方が効果的である。	現場における周知・徹底時には、作業員の方々が実際に作業等に携わる際に、対策を肌で感じられるような工夫をしたわかりやすい表記にするよう努めて参ります。